



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

東京都 板橋区立上板橋第一中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
オリンピック自身の様々な経験を通して  
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

## 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす  
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



## 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた  
オリンピックの価値を生徒に伝え、  
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**：濱口典子先生（バスケットボール）  
【出場オリンピック／アトランタ1996大会、アテネ2004大会】
- **期日**：2024年7月12日（金）
- **クラス**：8年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・バスケットボール競技でアトランタ1996大会とアテネ2004大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明し、運動の時間は特にエクセレンスとフレンドシップについて意識しながら取り組んでほしい。準備運動は2人組になり真ん中に置いたバスケットボールを取り合うゲームを実施。2人組のまま声を出しながらパスとキャッチの練習。その後、お互い相手の周りを1周ドリブルする。シュート方法の説明後、各班分かれてシュート練習を行う。

○主運動等



・主運動はパス&シュート競争を実施(全3回)。各班毎にパスを回しながらゴール下まで走りシュートを打ち、入ったらマーカーを1枚持ってスタート位置に戻る。リバウンドが成功した場合は続けてシュートを打っても良いが入らなかった場合はそのままスタート位置に戻り再スタートする。制限時間の2分間で何枚マーカーが取れたかを競う。2回目と3回目は隣のチームのパスを邪魔できるルールを追加。途中作戦タイムを設け、マーカーの数を増やす方法を話し合う。



・運動の時間を振り返り、皆が楽しんで取り組んでくれたことは素晴らしい。良い結果を出すために、仲間とコミュニケーションを取りながら、意見を出し合い作戦を考えたことはオリンピックバリューに結び付く。バスケットボール競技はチームスポーツであり、皆で考えることでチームワークが良くなり強くなる。座学の時間は、競技生活で経験したことをオリンピックバリューに当てはめて話すので、皆が今後オリンピックバリューをどう生かせるかを考える時間にしたいと話し、授業終了。

- オリンピアン：濱口典子先生（バスケットボール）  
【出場オリンピック／アトランタ1996大会、アテネ2004大会】
- 期 日：2024年7月12日(金)
- ク ラ ス：8年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・試合映像を見ながら自己紹介。自分のプレーに納得ができなかった時期に、技術的に難しいとされていたディフェンスをかわしながら打つフックシュートをコーチに勧められた。最初は上手くいかなかったが、諦めずに練習を積んだことで試合でもシュートを決める回数が増えた。リーダーとして常に心掛けていたことは、絶対にふてくされないこと、仲間をどんな時も抱きしめられる人になることだった。皆も人間関係を積極的に学んでほしい。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：楽しかったこと、嬉しかったこと、面白かったことを書いてみよう。

発表：「お祭りに友達と行って思い出ができた」「テストの合計点数を競い合った」「友達と一緒に帰った」「四つ葉のクローバーを見つけた」「運動会で優勝した」「校外学習」様々な場所で演奏した」「部活動で入賞した」「運動会の綱引きとリレー」「今日のバスケットボールの時間」「できなかったことができるようになった」「班の仲間とバスケットボールをした」「クラスメイトの笑い声」「友達の一発ギャグ」「友達と話している時」等



・座学の時間を振り返り、皆の発表の中に友達という言葉が沢山あったのは素晴らしい。オリンピックバリューのフレンドシップにはお互いを理解する、思いやる、チームワーク等の意味がある。皆は自然にオリンピックバリューを実践している。日頃から楽しかったこと、嬉しかったことを常に感じながら充実した学校生活を送ってほしい。友達の良いところを見つけ、悪いところも認め合える関係でいることがクラスの団結につながる。更にチームワークの良いクラスになってほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・8年1組



■記念品贈呈

・8年1組



■修了証贈呈

